

ペルシア語専攻

西アジアの文化や歴史に興味があり、その言語を勉強してみたいと思っている受験生諸君をペルシア語専攻は歓迎します。入学してほしい学生は知的好奇心にとみ、それを維持していく知的能力を持った学生です。



シェイフ・ロトフォラーモスク（イスファハーン）

ペルシア語はインド・ヨーロッパ語族に属し、英語やドイツ語などとは親戚関係にある言語のひとつです。その言語資料の歴史はかなり古く、古代ペルシア語は紀元前6世紀以降アケメネス王朝の王たちが碑文で用いたのに始まります。

私たちが勉強するのはイランがイスラム化された7世紀半ば以降、9～10世紀にかけて文章語として確立された近世ペルシア語です。この言語は、イスラムの影響で、文字はアラビア文字を用い、大量のアラビア語の単語が借用語として入ってきています。

ペルシア語はもともとはイラン南西部の一方言でしたが、イラン文化の発達と拡大に伴い、中世にはイランだけでなく、東は北インド、アフガニスタン、西はトルコ、北は中央アジアにわたる広大な地域で公用語、学術語として用いられ、イスラム世界においてアラビア語に次ぐ重要な地位を占めました。その名残が現代のタジキスタンのタジク語やアフガニスタンの公用語の一つであるダリー語です。これらの言語は、名称こそ異なれ、実体はペルシア語です。

また、多くの優れた文学作品がペルシア語で書かれました。ゲーテは散文の古典『カープスの書』やハーフェズの抒情詩集を耽読し、その啓発を受けて『西東詩集』が生まれたと言われています。とくに詩文学に優れ、19世紀のフィッツジェラルドの英訳で世界中に名声を博したオマル・ハイヤームの『ルバイヤート（四行詩集）』、フェルドウスィーによる英雄叙事詩『王書』、イラン人がもっとも愛好するサアディーの『薔薇園』など世界文学史上に名を留める名作が数多くあります。

イラン文化は東西文化交渉史においても大きな活躍をしています。シルクロードを経てイラン文化が日本に渡来し、少なからざる影響を与えたことはもはや常識となっています。美術では、建築、庭園、陶器、絨毯にも名品が少なくありません。

こうした豊かな伝統に支えられたイラン文化をペルシア語の学習を通して学んでいきます。

「サラーム」

سلام

学生の声



3年 土井 ひかり

みなさん、こんにちは。ペルシア語専攻3年生の土井ひかりと申します。ペルシア語と聞くと、どんなイメージを思い浮かべるでしょう？「うねうねしたミミズみたいな文字のやつ」。そんな印象を持たれている方が多いと思います。確かに一見ただけではどう読めばいいのか分からない言語です。ですが実は文法が英語に近く、シンプルで習得しやすい言語なのです。

ペルシア語を母語とする国、イランもみなさんにとっては謎の多い国かもしれませんね。息をのむほど美しいモスクや庭園、広い砂漠など、その景色は日本とは大きく異なっています。長い歴史や豊かな文化を持つ、とても魅力的な国です。

ペルシア語専攻の学生は一学年20人と少ないですが、その分クラスメイトや先輩、先生との距離が近く、授業の密度も非常に濃いです。そして、先生と一緒に1～4年生で遠足に行ったり、学園祭でイランの伝統的な料理を販売したり、ペルシア語を使って劇をしたりと一年を通して様々な楽しいイベントがあります。

私は、2年生の春にイランに1ヶ月ほど行ってきて、実際にイランの文化を体験してきました。おもてなしが大好きで、ことあるごとにチャーイ（お茶）を振る舞ってくれる気さくなイランの人たち。彼らと実際にペルシア語で話をする中で、自分にとって未知の世界を学ぶことのおもしろさ、大切さを痛感しました。

みなさんも、ペルシア語を通じて新しい世界を体験してみませんか？



留学生体験記



4年 重谷 一郎

僕はイランの首都テヘランで9ヶ月過ごしました。皆さんにとってイランは危険な国というイメージが強いかもしれませんが、留学を通しイランという国は僕にとって世界中で最も魅力的な国に変わりました。

毎日決まった時間にテヘランの町中に響き渡るコーランの一節を聞きながら、時には机に向かい勉強し、また時にはイラン人の友達たちと近くの公園に行き、水タバコを片手にチャイを飲みながら語り合い、またまた時には人々の活気で溢れかえるバーザールまで足を運び、バーザール商人達とペルシア語で値段交渉をしたりと留学最終日まで毎日充実した日々を過ごすことができました。留学当初は今まで学校で習ってきたいわゆる「書き言葉」と実際にイラン人の間で話される「話し言葉」のギャップや、語彙力のなさに苦しみましたが、生活を通して自分も話し言葉を話すようになり、テレビの取材に応じた際もペルシア語で自分の意見をすらすらと言えるようになりました。

留学は単に言語能力を極めるだけでなく、主体的に行動することで日本では経験できない様々な価値観に触れることができます。僕自身イランで伝統的な楽器を習い、現地でオーケストラのメンバーになりイラン人とより密接に関係を持ち、様々な価値観に触れることが出来ました。留学、特にイラン留学は現地の実情を肌で感じ、メディアを通してだけでは知ることの出来ない様々な体験をするいいチャンスだと思います。

